

『摂南大学教育学研究』第17号発刊にあたって

「摂南大学教育学研究」編集委員会
委員長 吉田 佐治子

このたび、『摂南大学教育学研究』(Bulletin of Educational Research of Setsunan University)第17号が完成いたしましたので、発刊いたします。

本誌は、摂南大学教職支援センターの教員及び教職課程を履修した卒業生を中心に、教育の理論および実践的交流誌として発刊するもので、教職支援センターの研究事業として17年の歳月を刻むこととなります。

2020年は、新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。多くの人命が失われ、影響は多方面に及びました。私たちの社会の成り立ちを改めて考えさせられました。「With コロナ」ということばが示すように、生活も一変しました。それは、大学においても同様です。学生の姿が消え、特に前期は、授業も原則として遠隔で行われました。私もはじめて遠隔授業に取り組みましたが、一言で感想をいうならば「つまらない」です。これまで当たり前だと思っていた学生の顔をみながらの授業が、いかに楽しいものだったのかということに気づきました。また、学生話をきくと、友達と他愛ないおしゃべりをしたり、課外活動に励んだりなど、授業以外のことも大切なのだと思わされます。大学で学ぶということは、大学という場にいることなのかもしれません。その場を構成する者として、よりよい場になるように努めなければならないと、そのようなことを考えた1年でした。

本学の発展と共に教職課程の教育内容がますます充実していくための一助となるために、この『摂南大学教育学研究』が役立つことを願っています。

2021年1月31日